

# 令和3年度 基本施策評価シート

作成日 令和3年5月21日

基本施策	D4 人と自然が共生する環境をつくります		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 象 図	
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	自然と共生する社会の実現へ向け取り組んでいる。	
長崎市第4次総合計画(後期基本計画)基本施策掲載ページ		109ページ ~ 112ページ	
基本施策主管課名	環境政策課	所属長名	執行 毅
関係課名	水産農林政策課、農林振興課、土木防災課、北総合事務所地域整備課		

## 基本施策の評価

Bd 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

### 判断理由

- ・基本施策の成果指標すべてが95%以上の目標達成率となったことから、「B」とする。
- ・個別施策の成果指標すべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「d」とする。

### 【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1)市有林において、森林経営計画等に基づき、間伐や下刈、作業道開設等の森林施業を実施したことにより、土砂流出防止や水源かん養、空気の浄化などの公益的機能の充実が図られた。
- (2)間伐材を利用した木製品等を学校図書館へ提供する取り組みを推進するなど、木製品等を公共施設などへ提供することで資源の有効利用や木材の良さや魅力を伝えることができた。
- (3)相川休耕田、黒崎永田湿地自然公園、いこいの里及び体験の森等を活用し、親子環境教室、自然観察会、自然体験学習会並びに地域・団体との協働による里山清掃及び森林清掃等を実施したことにより、豊かな自然とのふれあいや自然保護意識の高揚が図られた。
- (4)維持管理が行われない森林の増加による森林の公益的機能の低下や、希少種や外来種に対する市民の認知度の低さなどが課題として残っている。

## 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H29	H30	R元	R2	R3
森林整備面積 (植林、枝打ち、間伐等) [累計]	2,093ha (26年度)	↑ 目標値	2,693	2,893	3,093	3,293	3,493
		↑ 実績値	2,773	3,022	3,260	3,602	
		↑ 達成率	103.0%	104.5%	105.4%	109.4%	
ホテル飛翔定点確認箇所数	80箇所 (26年度)	↑ 目標値	81	81	81	81	81
		↑ 実績値	78	78	79	77	
		↑ 達成率	96.3%	96.3%	97.5%	95.1%	

## 今後の取組方針

- (1)年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を引き続き実施し、調査結果の積極的な活用を図る。
- (2)地域・団体等、多様な主体による事業展開を図り、豊かな自然とのふれあいや自然保護意識の高揚を図る。
- (3)森林体験学習などの親子での自然観察会、自然体験型学習会などの環境教育及び環境イベント等による自然環境保全意識の啓発を図る。
- (4)水源かん養や土砂流出防止等の維持のため、森林整備を行うとともに、自然環境に配慮した公共工事に取り組む。

## 二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Bd」については、所管評価のとおり。
- 木質バイオマスの活用については、サステナエナジーのスタートアップ事業や、新産業の育成の面でも寄与できると考えられることから、検討を進めてほしい。
- あぐりの丘については、環境教育に関してこども部との連携も積極的に検討してほしい。

## 令和3年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-1 自然環境の保全を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	生物多様性の保全に取り組んでいる。	
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	執行 毅

### 令和2年度 of 取組概要

- ①自然環境保全への取組み
- ・市有林において、森林経営計画等に基づき、間伐や下刈、作業道開設を行った。
  - ・長崎市産材など地域産材を積極的に活用するため、市有林の間伐材で制作した木製品等を学校図書館など公共施設等へ提供する取り組みや一般市民への販売を行った。
  - ・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を実施した。
  - ・二級河川大井手川の河川改修工事において、引き続き自然環境に配慮した河川整備を行った。
- ②自然環境の周知・啓発
- ・環境保全への意識や行動を高めてもらうため、小中学生とその保護者を対象とした親子環境教室を3回開催した。【D5-1から再掲】
  - ・自然環境保全のパロメーターのとして、定点のホタル飛翔調査を実施し、結果を「ながさきホタルマップ」としてとりまとめ、市のホームページや市役所本館における掲示により、積極的な情報発信を行った。

### 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H29	H30	R元	R2	R3
自然環境保全団体加入者数	642人 (26年度)	↑ 目標値	972	1,082	1,192	1,300	1,410
		実績値	1,192	1,150	1,115	1,263	
		達成率	122.6%	106.3%	93.5%	97.2%	

※自然環境の保全を目的とする市民団体の加入者数(20団体)自然環境についての学習を行う団体 環境保全活動を行う団体

### 評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①自然環境保全への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐等の森林施業の実施により、林内の適度な光の射し込みや通風が確保されたことで、造林木の育成や下層植生の生育が促進された。</li> <li>・間伐材を利用した木製品等を製作し、学校図書館など公共施設等へ提供する取り組みを推進することで資源の有効利用や木材の良さや魅力等を伝えることができた。</li> <li>・公共施設の建築、改修計画の把握を行うことで、木材利用の促進を図った。</li> <li>・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を実施し、生物多様性の現況を把握した。</li> <li>・大井手川の河川整備では、植樹ブロックや魚巣ブロックの設置等、防災性向上に合わせて自然環境への配慮が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水源かん養や土砂流失防止等の森林の公益的機能の充実が図られた。</li> <li>・森林整備の際に産出される間伐材による木製品の利用普及を促進し、伐採される樹木の有効活用を図り、森林整備、森林保護に寄与する。</li> <li>・生物多様性の状況を把握・分析し、今後の自然環境保全のための資料とすることができた。</li> <li>・河川の自然環境保全につながった。</li> </ul>

<p>②自然環境の周知・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタルの飛翔状況の情報提供を行うことにより、現在の自然環境の状態を発信することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタルの飛翔状況を積極的に市民にPRすることにより、身近な場所に残されている自然に対する保全意識の向上につながった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子環境教室の参加者(245人)は、山・川・海における自然体験の中で、自然とふれあいながら自然環境保全の大切さを知ることができた。【D4-3から再掲】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家による説明を交えながら自然観察や生物の同定を実施することで身近な生物の多様性や自然と人とのつながりなどに触れ、自然環境保全の重要性の認識につながった。</li> </ul>

### 評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①自然環境保全への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持管理が行われない森林が増加し、森林の公益的機能の低下や自然環境の維持・確保について懸念される。</li> <li>・大井手川の環境に配慮した計画により整備を実施しているが、並行する県道の整備や、下水道等の支障物件の移設に時間を要している【D4-2から再掲】</li> <li>・希少種や外来種に対する市民の関心の高まりが一定見られるが、希少種の生育環境の確保や外来種への適切な対応が十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業従事者の高齢化や減少、木材価格の低迷、生産経費の高騰等による経営意欲の減退等による。</li> <li>・関係する事業全体の進捗・影響などによる。</li> <li>・希少種や外来生物に対する情報発信が十分でない。</li> </ul>
<p>②自然環境の周知・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の多様性や自然環境保全のパロメータとなる指標がホタルの飛翔地点に限られており、十分な周知・啓発へとつながっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の多様性と自然環境の状態のパロメータとなる指標の把握が困難である。</li> </ul>

### 今後の取組方針

<p>①自然環境保全への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を引き続き実施し、調査結果の積極的な活用を図る。</li> <li>・希少種の保護に向け、周辺市民や関係団体等と連携し、実態調査、生息・生育環境の保全を図る。</li> <li>・森林の持つ多面的機能を発揮させるため、適切な管理が必要な森林の抽出や整備の優先度等を検討し、森林の整備促進を図っていく。</li> <li>・木材の良さに触れてもらい、森林資源の有効利用や魅力を伝える等の地域産材のPRに取り組む。</li> <li>・親子環境教室では、より適切な開催時期やメニューの検討を行いつつ、継続して自然環境に対する意識の高揚を図る。【D5-1から再掲】</li> <li>・防災上、緊急を要する箇所を優先的に整備する中でも、生態系や親水性に配慮した河川の整備を実施しており、関係機関との調整を図り事業の進捗に取り組む。【D4-2から再掲】</li> </ul> <p>②自然環境の周知・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタルを含めた生物多様性の重要性について、市民の関心を高めるための積極的な広報・啓発に取り組む。</li> </ul>
---

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
1	<p>(事業名) 自然環境保全推進事業 【環境政策課】</p> <p>(事業目的) 長崎市の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、自然環境の保全と市民への周知・啓発を図る。</p> <p>(事業概要) 長崎市自然環境調査委員による希少動植物の調査や人と自然とがふれあえる場の保全や自然体験学習の場を確保する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	ホタル飛翔定点確認箇所数	
		目標値	81 箇所	81 箇所
		実績値	79 箇所	77 箇所
		達成率	97.5 %	95.1 %
		決算(見込)額	1,977,081 円	1,919,100 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>自然環境保全のパロメーターのひとつとして、ホタルの飛翔状況は重要であることから成果指標とした。</p> <p>地域の主要な81箇所の定点において、ホタルの飛翔が確認できた箇所数を目標値とした。</p>	<p>自然環境保全のパロメーターのひとつとして、ホタルの飛翔状況は重要であることから成果指標とした。</p> <p>地域の主要な81箇所の定点において、ホタルの飛翔が確認できた箇所数を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 平成27年度から定点の82箇所ではホタル飛翔調査を実施してきたが、そのうち1箇所が、工事により調査不能となったため、81箇所に変更となった。</p> <p>また、相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、維持管理や観察会を行うとともに、長崎市自然環境調査委員による希少動植物の調査を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 河川流域の住民の協力を得て、定点調査の目標は達成できた。</p> <p>市ホームページへの掲載や市役所本館玄関等での掲示により、市民への瞬時の情報提供をすることで、市民の関心も高くなったが、一方で観賞時のマナーアップが課題となっている。</p>	<p>(取組実績) 平成27年度から定点の82箇所ではホタル飛翔調査を実施してきたが、そのうち1箇所が、工事により調査不能となったため、81箇所に変更となった。</p> <p>また、相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、維持管理や観察会を行うとともに、長崎市自然環境調査委員による希少動植物の調査を実施した。</p> <p>(成果・課題等) ホタルの会等の協力を得て、定点調査を実施することができた。</p> <p>市ホームページへの掲載や市役所本館玄関等での掲示により、市民への情報提供をすることで、市民の関心も高くなったが、一方で観賞時のマナーアップが課題となっている。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
2	<p>(事業名) 間伐材活用促進費</p> <p>【農林振興課】</p> <p>(事業目的) 市有林の間伐材等の有効活用を図るとともに、地域資材のPR及び森林資源の有効活用を図る。</p> <p>(事業概要) 市有林の間伐材等を板材や角材等に製材し、資材の提供や木製品を製作し、市施設や自治会等公共的施設等へ提供及び貸出しを行う。 また、一般市民への販売も行う。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	間伐材の利用本数	
		目標値	1,000 本	1,000 本
		実績値	772 本	1,043 本
		達成率	77.2 %	104.3 %
		決算(見込)額	4,114,652 円	7,372,858 円
		成果指標及び目標値の説明	間伐材の年間使用本数を成果指標とした。 過去(H20、H21)の使用本数の平均値を目標とした。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) <公共施設等への提供> フラワーポット … 33基 バンコ椅子 … 78脚 ブックトラック ※ … 16台 楕円テーブル ※ … 8台 その他特注製作や資材として提供 ※公共建築物等木質化推進事業にて製作・提供  <販売> フラワーポット資材… 60基分 バンコ椅子 … 1脚 フラワーポット … 11基 木材市場出荷 … 419.134m3 うち一般建築材 73.746m3 バイオマス材 345.388m3	(取組実績) <公共施設等への提供> フラワーポット … 78基 バンコ椅子 … 105脚 ブックトラック … 20台 楕円テーブル … 8台 その他特注製作や資材として提供  <販売> フラワーポット資材… 65基分 バンコ椅子 … 1脚 木材市場出荷 … 301.758m3 うち一般建築材 29.698m3 バイオマス材 272.06m3
			(成果・課題等) 市有林の間伐材等を活用し、公共施設等での木材利用に取り組んだ。 一般建築材等として曲がり等により、不向きな材が多く、バイオマス材としての出荷が多かった。	(成果・課題等) 市有林の間伐材等を活用し、公共施設等での木材利用に取り組んだ。 一般建築材等として曲がり等により、不向きな材が多く、バイオマス材としての出荷が多かった。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度	
3	(事業名) 【補助】山林整備事業費(公有林) 【農林振興課】 (事業目的) 市有林の森林資源の有効活用と公益的機能の充実を図るため整備を実施する。 (事業概要) 集約化実施計画及び特定間伐等促進計画、森林経営計画に基づき、間伐等の保育、道路網等の整備を実施する。 【市直営林面積】A=1,035.18ha	実施年度	継続		
		成果指標	年間整備面積		
		目標値	30.0 ha	30.0 ha	
		実績値	16.3 ha	15.9 ha	
		達成率	54.3 %	53.0 %	
		決算(見込)額	12,260,223 円	15,250,530 円	
		成果指標及び目標値の説明	長崎市有林の年度毎の森林整備(保育等)面積を成果指標とした。過去の森林整備面積の平均値を目標とした。		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	利用間伐 … 6.80ha 下刈り … 7.41ha 防火広場手入れ … 0.54ha 防火線手入れ … 1.56ha 小計 16.31ha 森林作業道開設 … 937m	(取組実績) 利用間伐 …6.72ha 下刈り …6.51ha 防火広場手入れ …1.10ha 防火線手入れ …1.56ha 小計 15.89ha 森林作業道開設 …1,740m
			(成果・課題等)	利用間伐について、予定箇所が急峻な地形で木の生育が悪く、利用できる木が少なかったため、事業実施面積が減少した。 今後も、利用間伐が主体となるため、搬出道の計画に併せた森林経営計画の策定を行い、計画的に森林整備を実施する必要がある。	(成果・課題等) 利用間伐について、予定箇所が急峻な地形で木の生育が悪く、利用できる木が少なかったため、事業実施面積が減少した。 今後も、利用間伐が主体となるため、搬出道の計画に併せた森林経営計画の策定を行い、計画的に森林整備を実施する必要がある。

## 令和3年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-2 自然とふれあう場と機会を創出します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図	
	市民が	自然とふれあうことで、安らぎや潤いを感じている。	
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	執行 毅

### 令和2年度の取組概要

①自然とふれあう機会の創出

- ・環境保全への意識や行動を高めてもらうため、小中学生とその保護者を対象とした親子環境教室を3回開催した。【D5-1から再掲】
- ・相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、幼稚園児～大学生及び小中学校教員等を対象とする学習会・研修会を通して希少動植物とのふれあいを図るとともに、里地・里山・里海等においても、市民環境活動団体や多くの市民が環境保全活動を通して自然とのふれあいを図った。
- ・体験の森の森林体験館、休養宿泊施設、キャンプ場、運動広場等の施設において利用提供を行った。
- ・コロナの影響で、いこいの里において、土と自然に親しみながらレクリエーションができるよう、様々な体験プログラムを実施することができず、市民・団体による体験プログラムも減少した。また、民間企業が、CSR活動(企業の社会的責任を果たす活動の場)として、昨年に引き続き、シバザクラの植樹を計画したがコロナの影響で実施することができなかった。

### 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H29	H30	R元	R2	R3
自然とのふれあい体験イベントへの参加者数	68,804人 (26年度)	↓ 目標値	72,250	73,400	74,550	75,700	76,850
		↑ 実績値	80,707	84,165	89,250	54,446	
		達成率	111.7%	114.7%	119.7%	71.9%	

※ 市内で開催される市民向けの自然とのふれあい体験イベントへの参加者数及び自然体験施設利用者数  
(あぐりの丘: 37,422人、市民の森: 14,176人、ペンギン水族館: 367人、科学館: 50名、相川休耕田、黒崎永田湿地自然公園野外観察会: 49人、各公民館講座等: 2,098人、親子省エネ教室: 39人、親子教室245人)

### 評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①自然とふれあう機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子環境教室の参加者(245人)は、山・川・海における自然体験の中で、自然とふれあいながら自然環境保全の大切さを知ることができた。【D4-1へ再掲】</li> <li>・森林体験学習(16回 983人参加)の開催等、森林の大切さを伝える森林体験を提供し市民が利用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家による説明を交えながら自然観察や生物の同定を実施することで身近な生物の多様性や自然と人とのつながりなどに触れ、自然環境保全の重要性の認識につながった。</li> <li>・体験の森の森林体験館等の施設を利用提供することで、市民の自然環境保全における森林及び林業の重要性の啓発や、自然愛護意識の高揚が図られた。</li> </ul>

## 評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①自然とふれあう機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民協働の輪が広がっているが、あぐりの学校(ワークショップ)への新規参加者が伸びていない。</li> <li>・体験の森は利用数の増減が著しい。</li> <li>・親子環境教室の参加者については、自然に関心の高い常連の方が多く、新たに参加される方の獲得を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動の成果やあぐりの学校(ワークショップ)の情報発信が十分ではない。</li> <li>・運動広場の利用者数が多数を占めていることから、遠足利用の有無や、天候の影響を受けやすいことが要因と考えられる。</li> <li>・教室の周知について、これまであまり環境に興味関心を持っていなかった子どもでも参加したくなるような内容となっていない。</li> </ul>

## 今後の取組方針

- ①自然とふれあう機会の創出
- ・親子環境教室では、より適切な開催時期やメニューの検討を行いつつ、継続して自然環境に対する意識の高揚を図る。【D5-1から再掲】
  - ・体験の森については、今後も親子参加型の自然体験型学習会などのイベント実施や地域・団体等との協働による事業(里山清掃・森林清掃等)を継続的に展開し、自然とのふれあいの場の提供を図っていく。
  - ・いこいの里については、市民協働による体験プログラムを含めてコロナ禍においても実施可能な体験プログラムを企画・検討し、来園者が更に土や自然にふれあうことができるよう努める。また、自然体験学習の場やCSR活動の場としても活用できるよう積極的にPRに努める。
  - ・いこいの里の市民協働の取組みについては、市民活動の成果を記録した活動パンフレットによる広報や、活動者が仲間を新規参加者として紹介する仕組みを取り入れ、活動の輪が広がるよう積極的な取組みに努める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
1	(事業名) 体験の森運営費 【水産農林政策課】  (事業目的) 指定管理者制度により、体験の森の管理運営を行う。  (事業概要) 1. 施設修繕 老朽化した施設等の修繕を行う。  2. 管理等委託 指定管理者制度により施設の管理運営を行う。	実施年度	継続	
		成果指標	利用者数	
		目標値	25,000 人	25,000 人
		実績値	20,658 人	14,176 人
		達成率	82.6 %	56.7 %
		決算(見込)額	19,794,406 円	22,155,286 円
		成果指標及び目標値の説明	自然環境保全意識の向上のためには森林体験学習など親子での自然観察会や自然体験型学習会などへの参加者が重要であるため、成果指標とした。 H17～H21の5カ年平均を目標値としている。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 令和元年度末現在、施設利用者数20,658人 親子参加型の自然体験型学習やウォーキングなどのイベントを実施。  (成果・課題等) 猛暑や遠足利用の減少により、利用者が減少したことから、前年度より利用者が減少し、目標値を下回った。	(取組実績) 令和2年度末現在、施設利用者数14,176人 親子参加型の自然体験型学習やウォーキングなどのイベントを実施。  (成果・課題等) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前年度より利用者が減少し、目標値を下回った。		
2	(事業名) あぐりの丘運営費 (H24から「あぐりの丘体験費」を運営費に統合) (H26から「いこいの里施設整備事業費」を運営費に統合) 【農林振興課】  (事業目的) 1. いこいの里(あぐりの丘を含む)の施設の運営及び環境の維持管理 2. 市民及び来園者が、土と自然に親しみながら行うレクリエーション活動ができるよう様々な体験の場を提供する。  (事業概要) 1. 「施設の維持管理」の実施 施設・設備の維持管理、花・樹木管理、動物の飼育、園内清掃、施設・設備の修理 2. 「各種体験教室」の実施 料理体験、ふれあい動物体験、収穫体験、フリーマーケット、飯ごう炊さん、幼稚園収穫体験、切りばら体験、他各種体験の実施 3. 市民協働の活動の支援 ワークショップ、あぐりフェス及びあぐりの学校の開催・支援、広報・宣伝	実施年度	継続	
		成果指標	あぐりの丘体験プログラムの参加者数	
		目標値	66,832 人	67,445 人
		実績値	105,951 人	37,442 人
		達成率	158.5 %	55.5 %
		決算(見込)額	90,390,233 円	90,390,233 円
		成果指標及び目標値の説明	あぐりの丘における各種体験の提供に対して、参加者数が重要であることから、体験プログラム等の参加者数を成果指標とした。 基準値の61,314人(H22年度実績)から毎年1%の増加とした。なお、H25年度から市民協働による新たな運営の仕組みづくりの構築を開始し、市民主体による体験プログラムへの参加者数も加算することとした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 各種体験の継続と料理特別教室等で41種類の体験を実施した。また、市民協働の取組みで、48団体が61種類の体験を実施した。  (成果・課題等) 各種体験の継続及び市民協働による活動者の体験プログラム数は減少したものの、昨年度と同様に参加者数の実績値が目標値を大きく上回った。	(取組実績) コロナの影響の中で、各種体験や料理特別教室等の継続に努め、64種類の体験を実施した。また、市民協働の取組みでは、R2.7.22にあぐりの丘で活動する団体や個人が「あぐりネットワーク」を設立し、32の団体や個人が、延べ137回の体験教室を実施した。  (成果・課題等) コロナの影響で、各種体験の継続及び市民協働による活動者の体験プログラム数が大きく減少したため、昨年度の参加者数の実績値が目標値を大きく下回った。		